

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

北海道博物館協会 会長をお引き受けするにあたって

北海道博物館協会 会長
北海道開拓記念館 館長 石森 秀三

このたび、堀達也前会長のあとを受けて、北海道博物館協会の会長をお引き受けさせていただくことになりました。

私は1975年～2006年まで国立民族学博物館（大阪府吹田市。以下「民博」）で助手・助教授・教授・研究部長・研究センター長として勤務し、梅棹忠夫・初代館長の下で新しい博物館創設の仕事に従事しました。その間、1998年～2007年には放送大学客員教授として、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営・情報論」を講じる機会を得ました。さらに2004年には民博の文化資源研究センター長に就任して民博の博物館部門の改革に尽力していましたが、2006年に北海道大学観光学高等研究センター長・教授に就任するとともに、大学院観光創造専攻を立ち上げて、観光学分野の高等研究・教育拠点の確立に努めました。幸い、今年3月末に北海道大学を退職し、堀達也前館長のあとを受けて、北海道開拓記念館の館長に就任いたしました。

北海道開拓記念館は、1971年に開館した総合的な歴史博物館ですが、今年11月に一時休館して老朽化した施設の大規模な改修工事を行うとともに、展示の改修も併せて行い、2015年春に「北海道博物館（仮称）」としてリニューアル・オープンする予定になっています。

開拓記念館はこれまで資料収集・調査研究・展示・教育普及などの諸活動に努めてきました。その間に「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が2008年に国会で採択されるなど、北海道に先住するアイヌ民族とその文化が一層注目されてきており、さらなる研究の推進、最新の研究成果にもとづく展示や学習の機会、情報発信の充実化が求められるようになってきています。さらに、少子高齢化や高度情報化の急速な進展、道民の価値観や学習ニーズの多様化などによって、博物館を取り巻く状況は大きく変化しています。

しかし、道内の博物館の多くは、「学芸員がいないか、いても数が少ない」「特別展を開催していない」「来館者が減少している」「予算が少ない」などの課題を抱えているほか、市町村合併などによる歴史資料等の散逸、産業構造や交通網の転換による地域社会の急激な変動などにより、各種資料の適切な収集・保存が困難な状況になっています。そのため、開拓記念館は道立施設として道内の各地域の博物館単館では限界のある諸活動を支援する役割が強く求められており、「人」「モノ」「情報」の各分野において道内の中核的博物館としての機能強化を図る必要が生じています。

このような背景のもとで、2010年に策定された「北海道博物館基本計画」では、①基本的機能の充実した博物館（わかりやすく・おもしろく・ためになる博物館、文化創造と地域活性化の拠点、道民と連携・協働する博物館）、②北海道の総合的な博物館（自然・環境を含む未来に向けた人間史の博物館、アイヌ文化を保存・継承し未来に活かす博物館）、③道内博物館の中核施設（地域の博物館との連携・協働、人・モノ・情報のネットワークの充実強化）などの基本方針が示されています。この基本計画にもとづいて、北海道博物館実施計画の具体化を現在進めています。

今後、より良いかたちで北海道開拓記念館のリニューアルを実現させていくとともに、道内博物館の中核施設として各地域との連携をますます強化して参りますので、宜しくご協力、ご鞭撻を賜われますように、心よりお願い申し上げます。



道央地区
News

木田金次郎 生誕120年をめぐって

木田金次郎の作品と生きた時代を現代に伝え、岩内という地域の多角的な発信を目指す木田金次郎美術館。今年は木田の生誕120年。皮切りに「木田金次郎12カ月」を開催している（4月4日～6月30日）。語呂合わせから発想した収蔵作品展だが、作品を制作月ごとに展示した初めての試みだった。岩内で描き続けた木田の一年間の制作スタイルが垣間見え、来館者からも好評を得た。

普段のラインナップとは毛色が異なるが、地域密着型の企画が、大型連休にあわせて開催した「大たら丸展」（4月26日～5月19日）。近年テレビ等を通じて全国的な人気者となったこのご当地キャラクターは、1980年生まれ、ゆるキャラ界の先駆けでもある。故人となられたが、「たら丸」の生みの親は、当館の開設にも深く携わった方でもある。多数の原画や歴代の着ぐるみ、活躍の軌跡を紹介した展覧会には、町内外（熱心な内地からのファンも）の老若男女が訪れ、展示室は常に笑顔があふれる場となった。

7月4日から開催する特別展示では、木田が60歳で初の大規模個展を行ってから60年となることから、「木田金次郎『第一回個展』の頃」を開催、

生誕120年をアピールしたい。また、顕彰する作家が互いに関わりをもつ5館が開催する「しりべしミュージアムロード共同展」は「人生いろいろ」をテーマに、各館ごとに様々な人生ステージを分担して紹介する（7月19日～8月18日）。

今年度、木田作品展示と並行して開催する「鼓動する日本画」、藤倉英幸氏、あべ弘士氏の展覧会などは、それぞれの縁により実現したもので、当館の活動の幅が広がるのは、何よりの大きな財産といえる。来年度は開館20年の節目を迎えるが、こうした縁を大切に、地域の中で活動して行きたいと想いを新たにしている。



本人？も来場して盛況だった「大たら丸展」

(木田金次郎美術館 学芸員 岡部 卓)

道南ブロック
News

郷土学講座を 開催しました

3月9日、函館市中央図書館で郷土学講座「箱館戦争－開陽丸と五稜郭の調査から－」を開催しました。

郷土学講座は道南の各博物館等の学芸員や専任職員が集い、一般市民を対象に様々な分野から郷土に関する話題を提供しながら、各地にある博物館への集客を狙って行っているものです。三回目となる今回の講座では、開陽丸の保存に携わってきた江差町教育委員会の藤島一巳主幹と、五稜郭の発掘調査に携わってきた市立函館博物館の田原良信館長による講演を行いました（所属は講座当時のものです）。当日は函館市やその近郊から152名が参加し、熱心に耳を傾けました。

◆江差沖から引き揚げられた開陽丸

開陽丸は江戸時代末期に建造された当時世界最新鋭の軍艦です。箱館戦争の最中に江差沖で沈没し、以後海底に眠ったままでしたが、1975（昭和50）年から本格的な発掘調査が行われました。

長らく海水に浸かっていたため、引き揚げられた遺物は脱塩・保存処理が重要となります。しかし、当時国内では大規模な水中遺跡の発掘の例はなく、フナクイムシなどの虫害対策や、材質ごとに違う処理方法、限られた処理場での効率的な作

業手順など、試行錯誤しながら進めていったことが話されました。開陽丸の発掘事例は現在、国内の他の水中の発掘調査の教科書的役割となっています。

◆五稜郭の調査からわかった箱館戦争

1985（昭和60）年から始まった五稜郭跡の発掘調査からは、旧幕府脱走軍が箱館戦争の際、当初あった奉行所の建物を利用したほか、周囲の建物・土塁等を改造していた可能性のあることがわかっています。

講演では、大砲を設置したと思われる跡や轍跡、また、本塁をくり抜いて設置されたと考えられる弾薬庫の跡などの発掘時の写真が示されました。当時の五稜郭に関係する記録はあまり残っていませんが、これらの発掘結果と照らし合わせながら、五稜郭の要塞機能が強化されていった様子を明らかにしていきました。また、各種図絵から考察した箱館戦争時の両軍の位置関係についても話されました。

◆アドベントカレンダー

今回の郷土学講座に合わせて、協議会のブログ上でアドベントカレンダーを実施しました。これは、協議会の会員が持ち回りで毎日記事を投稿するもので、「幕末維新・箱館戦争」をテーマに各学芸員が専門・得意分野を活かした読み応えのある記事が集まりました（詳細は<http://dounan.exblog.jp/>からどうぞ）。

(知内町郷土資料館 学芸員 竹田 聡)



平成25年度宗谷管内巡回展「小樽新聞記者藤井 伝一郎のみた宗谷－昭和戦前期の報道写真－」

宗谷管内では、学芸員の会（現在、稚内市、枝幸町、浜頓別町、礼文町、利尻町、利尻富士町で構成）が中心となって平成19年以降、樺太絵はがき展（H19）、宗谷の狛犬展（H20）、樺太国境標石のレプリカをメインとした樺太知られざる北の国境展（H23）、各地の船絵馬を集めた宗谷のあけぼの展（H24）というように共通テーマを決めて、巡回展を企画しています。

今年の4月、稚内市において学芸員の会が開かれ、市内の旧瀬戸邸見学後、今年のテーマや各市町で計画されている事業等について話し合われました。

今年は、昭和戦前期に小樽新聞社の記者であった藤井伝一郎氏を取り上げます。藤井氏の写真については、北海道開拓記念館に所蔵されており、その数は721件にのぼります。そのうち宗谷管内は248件と3分の1を占めており、戦前期の宗谷各地の産業や交通、建物、できごとなどを伝える貴重な資料となっています。

またこれらの写真は、報道写真として記事掲載されたものも含まれています。代表的なできごと

としては、昭和11年の皆既日食観測や同14年のインディギルガ号遭難事件、同15年の枝幸大火と紀元2600年記念明治神宮奉祝文聖火継走などが挙げられます。展示にあたっては、多数の写真パネルのほか、当時の記事をもとに編集したトピックも取り上げ解説します。

巡回展は、6月からの礼文町を皮切りに11月まで管内を巡回する予定です。順番は、7月：利尻富士町、8月：利尻町、9月：稚内市、10月：枝幸町、11月：浜頓別町です。



昭和15年 鬼脇村ニシン採卵のようす
(北海道開拓記念館所蔵)

(利尻富士町教育委員会 学芸係長 山谷文人)



平成25年度日胆地区 博物館等連絡協議会総会開催報告

5月9・10日の日程で、浦河町の柏陽館を会場に、平成25年度日胆地区博物館等連絡協議会総会を開催しました。

総会では、前年度の事業・決算報告のあと、今年度の事業計画及び予算案の審議に入り、その中で今年度の北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会が様似町で開催されることから、当会も積極的に協力していくことを確認しました。また役員改選では、会長に平取町立二風谷アイヌ文化博物館の松澤浩館長が留任（1年）し、新たな体制が決定しました。

総会に引き続いて行った研修会では、日高の特産品でもあるコンブの理解を深めてもらおうと、ひだか漁業協同組合三石地区青年部（部長 山口重信氏）の方々を講師に招き、コンブ漁について映像を交えながら解説していただきました。更にコンブ漁で使用される道具の説明と漁師がよく使うロープワーク（もやい結び・二重巻き結び）の実技を行い、参加者は悪戦苦闘しながらも講師のサポートを受け、結び方をマスターしていました。

2日目は、コンブと並び日高の主産業を占める馬について理解と親しみを深めようと、浦河町乗

馬公園で乗馬を体験しました。浦河町教育委員会スポーツ振興室の上妻智次長から馬具の説明と乗馬の際の注意点、馬の特性を学んだ後、早速馬に跨り、普段歩いている視線とは異なった高い位置からの視線に感嘆の声をあげていました。

2日間の日程を通じ、日胆地区の職員同士の交流が深まったことはもちろんですが、個人的には近くて遠い存在であった現役の漁師さんとも繋がりを持つ機会となり、非常に有意義であったと感じています。今後もこのような人と人との新たな繋がりを大切に、博物館活動の充実に役立てていければと考えています。



山口氏（左）によるロープワークの指導
(浦河町立郷土博物館 主幹 吉田正明)



十勝管内博物館学芸職員等協議会 設立20年を迎えます

十勝管内博物館学芸職員等協議会（会長 澤村寛 足寄動物化石博物館）は、十勝管内の博物館に携わる学芸員等の交流を深め、資質の向上を図り、管内博物館の発展に寄与することを目的に平成5年7月に発会し、今年は節目の20年目にあたります。

現在の会員はおよそ40名、多くは十勝管内の博物館施設の学芸スタッフと教育委員会の博物館担当者で構成され、一般も対象とした講演会、会員の知識・技術の向上と情報交換を目的とした研修会などを開催しています。

◆設立二十周年記念事業

『学芸員が選ぶ十勝の博物百千』

管内に所在する博物館施設の情報発信と十勝のさまざまな資源の再発見を目的に、会員が「おすすめ」する十勝の博物資源（館収蔵資料、自然、景観など）を写真と文で紹介するパネルを作成するものです。完成したパネルは10～11月をめどに巡回展示を行い、見学者による人気投票、さらに投票でトップ5になった資料のトークセッションも開催しようと目論んでいます。

◆「教員のための博物館の日in十勝」開催

国立科学博物館が中心となって全国展開する事業で、今年は道内では十勝を含めて3会場で開催されます。

十勝では、「博物館でできること」をテーマに管内の主要博物館施設等が連携して、多くの教員の皆さんに博物館を楽しんでもらい、博物館活動に興味・関心・親近感を持ち、その中から授業で活用できる学習資源を見つけていただき、学校と博物館のつながりをつくることを目指して、当協議会が中心となって7月30日に開催することで準備を進めています。

当日は帯広百年記念館をメイン会場に、講演会・シンポジウム、各施設を紹介するブース展示や体験プログラムのワークショップ、近隣施設のガイドツアーなどを計画しています。また、対象が十勝全域ということもあり、7月30日～8月4日は関係施設の無料見学、ガイドツアーも実施する予定です。

また、本事業がどのように効果を発揮するのか、博物館サイド、学校サイドにおいて追跡調査を行い、今後の博学連携の充実と、次年度以降の事業展開につながる情報の収集を図ります。

（帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子）



モヨロ貝塚館 リニューアルオープン

網走市のモヨロ貝塚館が平成25年5月1日（水）リニューアルオープンしました。

オホーツク海にそそぐ網走川の河口に位置する遺跡、モヨロ貝塚。今から約1300年前、北の大陸からやってきた人びとは、この網走の地にムラをかまえました。たくみな航海術と海獣狩猟・漁場の技術をもった彼らの暮らしはオホーツクの豊かな海の恵みに支えられ、それまで北海道では見られなかった「オホーツク文化」とよばれる独自の文化を発展させていきました。

モヨロ貝塚館では、発掘調査から明らかになった「オホーツク文化」の人々の暮らしを、「住居」「墓」「貝塚」のテーマごとに紹介しています。

地下1階の貝塚復元展示室では、復元された貝塚の展示とともに大正2年のモヨロ貝塚発見から現在に至る調査の歩みをたどります。

1階に併設する「墓域展示室」では、発掘された墓地の様子を復元、展示しています。

1階と2階の貝塚展示室では、モヨロ貝塚とオホーツク文化の時代、遺跡の立地について映像とともに紹介しているほか、モヨロのムラの暮らしを切り取ったジオラマを展示。また、オホーツク

式土器、骨製の銚や釣り針などの道具やクマの祭壇をそなえた大きな竪穴の復元住居により、モヨロの生活を体感できます。

さらに、頭に土器を被せ、手足を折り曲げて死者を葬るモヨロの人びとの独特の埋葬方法、大陸や本州との交易で入手し墓に副葬された金属製品なども紹介しています。

骨製の銚先が突き刺さったまま出土したオットセイの頭骨の展示からは、豊かなオホーツクの海とともに生きるモヨロ人の狩りの様子がうかがい知れます。

みなさんも北の海に生きた先人の暮らしを見つめてみませんか。



2階 貝塚展示室

（紋別市立博物館 業務係長 小林健一）



特別展「深海生物」 を終えて

春の特別展「深海生物」が5月末、好評裡に終了しました。深海は太陽光の届かない暗黒、かつ餌の少ない非常に苛酷な環境です。そんな環境に屈せず、今なお様々な知恵を振り絞って暮らす深海の生きものたちは、子供だけでなく大人の方の興味をも駆り立て、特にゴールデンウィーク期間には連日大勢のお客様にお越しいただいて観ていただきました。

特別展のオープニングは2009年11月、有人潜水調査船「しんかい6500」がインド洋の深海2422mから採取した貝「スケーリーフット」の貴重な標本です。柔らかい貝殻の中の組織を外敵から守るために、硬い硫化鉄でできたウロコを持つ未知の世界の謎多き生物です。

次の展示標本は海の神が住むとされる龍宮からの使者リュウグウノツカイ。標本と合わせ、泳ぐ様子を収めた貴重な映像を長崎県の九十九島水族館からお借りして公開しました。奇妙な容姿に加え、銀白色の体を輝かせ、たてがみのような赤紫色の背鰭を波立てて泳ぐ様子は、私たちが眼にしたことのない理想郷「龍宮」へ誘っているかのようでした。

ところで、小樽水族館では2年前から北海道の海に棲む深海生物の採集にチャレンジしてきました。今回の特別展ではその成果として、スペシャルコーナを設けて地元の海に棲む生体の深海生物

を展示しました。

また、展示した標本のほとんどは函館市にある北海道大学の博物館からお借りしましたが、有人深海潜水艇「しんかい6500」を所有する海洋研究開発機構の職員には横須賀から水族館に出向いていただき、カップ麺の容器と水を入れた水槽にポンプで水圧をかけ、発泡スチロールの容器がどんどん小さくなる実験を公開してもらいました。

「手品みたい」と驚きの声が上がったり、深海に棲む魚の浮き袋はなぜ潰れないのかといった質問も寄せられ、科学と連動した企画を通じて、水生生物に興味関心を持ってもらうことの可能性を改めて感じました。

そして最後は極めつけ、海のダンゴ虫ことオオグソクムシ、それに深海性のヒトデに触ってもらう深海生物のタッチングです。百聞は一見に如かずと言いますが、体験に勝るものなしを実感した今回の特別展でした。



水圧実験

(小樽水族館 館長 小田 誠)



北海道博物館協会及び 学芸職員部会HPの整備

この度、北海道博物館協会（以下、道博協）では、従来のホームページ（HP）を大幅にリニューアルし、また、学芸職員部会（以下、部会）では新たにHPを開設し、その製作を学芸職員部会が担いました。

◆北海道博物館協会HP

<http://www.hkma.jp>

加盟館園の博物館情報の発信ならびに各館園の連携・協力関係を深めることを目的に運営されます。主に、博物館関係者を閲覧対象としており、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載します。

◆学芸職員部会HP「集まれ！北海道の学芸員」

<http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する館園ならびに個人の活動情報、研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図ることを目的に運営されます。

主に、一般の方々への普及と広報の役割を担い、現在、「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマに、学芸員が自身の研究内容や携わっている活動内容等を紹介する「コラムリレー」を行っています。

また、本HPは、FacebookページやTwitterも開設し連動させることで、閲覧者数の拡大を図っています。

上記2つのHPは、ワードプレス（Wordpress）と呼ばれる無料のブログソフトを活用して作られており、記事は加盟館並びに各部会員が、プログラムの知識がなくても比較的簡単に投稿できるシステムとなっていますので、積極的に活用していただきたいと思っています。

なお、3月1日から5月10日までの71日間で、道博協HPは1日あたりの訪問者数14人、40ページビュー数、部会HPは1日あたりの訪問者数58人、151ページビュー数を記録しています。特に、部会HPではコラムリレーの人气が高く、最も人気のある記事は500人ほどが閲覧しています。

また、部会では同時にメーリングリストの整備も進め、様々なトピックスについて議論が活発にされるようになりました。

今後は、これらのHPのコンテンツを皆様と積極的に議論を交わしながら洗練させ、道民（国民）に開けた博物館活動及び学芸活動の周知と理解を図ることが重要であると考えています。そのためには、皆様の積極的なご理解とご協力が必要になりますので、どうぞよろしくお願い致します。

学芸職員部会IT担当幹事 栗原憲一
(三笠市立博物館)

青少年科学館
News

オホーツク流水科学センター 海岸での漂着物を調べよう

近年、当センターでは地域の自然を生かした体験学習を実施している。今回は海岸での漂着物調べを報告する。

海岸で漂着物を採集することをビーチコーミングと呼ぶ。ビーチは砂浜、コームは櫛のことで、砂浜を櫛でとくように、漂着物を探しながら散策する活動を意味する。採集した漂着物は持ち帰って、その正体や、どこからやってきたかなどを考える。このビーチコーミングを平成24年7月30日に紋別市オホーツク青年の家との共催で小学生を対象に行なった。

ビーチコーミングはコムケ湖付近の海岸で実施した。始めに危険物などの注意点を説明した後、参加者は2 kmほど海岸を歩きながら漂着物を探した。漂着物には人工物、自然の物など様々であるが、目につくのは大きな流木やペットボトルやビンなどで外国からの物も多い。人工物では食品の容器、おもちゃなどの生活用具、漁具などで、大きなものではタイヤ、テレビ、ドラム缶などもある。自然の物では、打ち上げられた貝殻、鳥の羽、鯨類や海獣の骨といった動物由来のものや、川から流れてきた草木、クルミの実などの植物を

見ることができる。石も良く見ると堆積岩、火成岩など様々な種類があり、参加者はメノウや、この地域独特の石英に取り込まれた泥岩に興味を持ったようだ。今回は見つけることができなかったが、時期によってはアオイガイなどの南方系の漂着物も見ることができる。

参加者は漂着物を持ち帰り、気に入ったものを紹介し、バーコードから産地を調べ、簡単な工作を行なった。ビーチコーミングでは実に様々な漂着物に出会うことができる。今まで興味のなかった分野に関心を持つ参加者もあり、この活動から、興味、関心の対象を広げ、ゴミが多い海岸の現状を知り、環境保全の意識が高まることを期待する。



紋別市オホーツク青年の家との共同事業
「わいるどトレック」にてビーチコーミング

(北海道立オホーツク流水科学センター
学芸員 桑原尚司)

道美学芸研
News

生まれ変わって、 苫小牧市美術博物館

平成25年7月27日、苫小牧市博物館は新たに美術館機能を加えて、苫小牧市美術博物館としてリニューアルオープンします。美術作品と博物資料がコラボするユニークな展示が楽しめる施設になります。見所を紹介します。

①展示室…従来は特別展示室(176㎡)だけでしたが、増築・改修して第1～第3展示室を設けました。3展示室の合計面積は計409㎡になりました。展示壁は白、床はフローリングでかなり明るい雰囲気になりました。照明もLEDにしました。

②ラウンジ…くつろぎの空間として文化公園を一望できるラウンジを新設しました。6月から10月にかけての緑豊かな文化公園の素晴らしさを満喫できることでしょう。

③研修室…改修して130人収容の研修室を新設しました。人気の「博物館大学講座」もこれでゆったりと聴講できそうです。

④中庭展示…従来は吹き抜けでしたが、彫刻を展示できるスペースに改修しました。郷土の造形作家の作品を窓越しに楽しめます。

⑤デジタルミュージアム…当館の収蔵美術資料は

約1000点ですが、この作品を来館者が自由に検索し、大型モニターで鑑賞できるコーナーを7月27日からエントランスに設置します。

◆今年度の特別展・企画展

7月のこけら落としの開館記念展は「出光美術館 日本陶磁名品選」で、企画展はそのあと9月「生誕100年 遠藤ミマン展」、10月「苫小牧港開港50周年記念展」、12月「第7回北海道現代具象展」、1月「子どものための美術展」、3月「手で観るミュージアム」と「おはなしミュージアム」と目白押しで開催します。

7月からは祝日開館し、いつでも誰と来ても愉しんでいただける美術博物館を目指します。



増築された美術館部分

(苫小牧市博物館 主査 三村 伸)

館・園の主な展覧会と普及事業 (平成25年7月～10月の行事予定)

石狩

●札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

6/1～7/7 企画展「ロベール・ドアノー展」

6/1～7/7 コレクション展「パリの彫刻家たち」

7/13～9/8 企画展「ほっかいどう大マンガ展」

9/14～11/24 企画展「高橋コレクション『マインドフルネス!』」

●北海道開拓記念館 (011-898-0456)

7/6～9/8 特別企画「発見! 体験! スタンプラリー! 夏休み探検隊♪」

7/7 考古学講座「石器をつくる」

8/10 観察会「草原の王者! トノサマバッタをさがそう!」

8/11 歴史講座「会津藩のカラフト警備」

9/8 歴史講座・映画上映会「戦前・戦後における北海道の記録映画」

9/29 歴史講座「歴史のなかの『開道百年』」

10/20 歴史講座「ある津軽人が記した幕末の松前・蝦夷地情報」

●北海道立文学館 (011-511-7655)

5/25～7/7 特別展(群馬県立土屋文明記念文学館移動展)「紙芝居の今昔」

7/2～9/29 常設展アーカイブ「鳩沢佐美夫自筆資料」

7/2～9/15 (応募受付) 第8回小・中学生短歌コンテスト

7/5、10/4 朗読会「宮沢賢治の世界Ⅰ・Ⅱ」

7/6 ～わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせ、紙芝居など」

7/11、8/8、9/12、10/10 月例朗読会

7/14 映像作品鑑賞のつどい「蟹工船」

7/19 カルチャーナイト2013 夜間開館(俳句吟行会、ミニ色紙作り、古書バザール、朗読会)

7/20～8/25 ファミリー文学館「絵本・カムイの物語」

7/28 ～わくわく～こどもランド「手作り教室・うちわをつくろう!」「手作り教室・動物園をつくろう!」

7/31～8/2 創作講座「夏休み文学道場 中・高生のための創作講座」

8/3日 文芸公演「銀の滴 降る降るまわりにーカムイユウカラを語る」

8/3 ～わくわく～こどもランド「夏休みスペシャル 絵本の読み聞かせとアフリカンドラムの演奏」

8/6、8/7 ～わくわく～こどもランド「手作り教室・紙芝居をつくろう!」

8/25 映像作品鑑賞のつどい「イルカと少年」

9/7～10/20 特別展(三鷹の森ジブリ美術館企画)「挿絵が僕らにくれたものージブリが読み解く“通俗文化の源流”ー」

9/7 文芸講演会「ジブリ美術館と挿絵の楽しみ方(仮題)」

9/7、10/5 ～わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせ、紙芝居など」

9/23 文学館まつり(ギャラリー文学館、文学館演芸場、こども広場、一日限りの資料公開など)

10/1～12/14 常設展アーカイブ「北海道の漫画家たち」

10/6 映像作品鑑賞のつどい「シンドバット7回目の航海」

●北海道立三岸好太郎美術館

(011-644-8901)

6/29～9/8 所蔵品展第2期+特別展示「絵からとびだしておいで!」

9/14～11/17 特別展「生誕110年記念 三岸好太郎展」

●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)

6/29、7/6、8/24 体験講座「土器づくり教室(全3回)」

7/13 体験講座「化石パラタクソノミスト養成講座(初級) in 石狩」

7/27 体験講座「テンキ作り～ハマニンニクでかごを編む」

7月(日時未定) 体験講座「勾玉づくり」

8/17 体験講座「サケ切身骨格標本をつくる」

8/28～10/7 テーマ展「縄文の木のうちわ」

8/31 体験講座「ミニチュア『縄文の木のうちわ』を作ろう」

9/15 体験講座「サケ缶レプリカをつくって、サケの歴史をみよう」

10/6 トークイベント「ウミベオロジー2013」(会場:紀伊國屋書店札幌本店)

10月(日時未定) 野外講座「石狩りビーチコマーズ/秋の漂着物」

渡島

●市立函館博物館 (0138-23-5480)

6/14～9/1 企画展「新島襄と幕末の箱館」

7/6、7/7、7/21 体験! 日本画教室

7/19 宇宙と天体「夏の星座を見てみよう」

7/20 親子で作る「ペタペタアート」

7/27 親子でクッキング! 「アイヌの伝統料理」

7/28 夏休み自由研究「ピンホールカメラを作ろう」

7/30 夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」

7/31 わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」

8/1 わくわく科学教室「親子で『なき砂を作ろう』ー乾燥剤を科学する。シリカゲルって何?ー」

8/8 夏休み自由研究「昔の生活を調べよう」

8/9 夏休み自由研究「黒曜石で矢じりを作ろう」

9/21～11/3 企画展「新収蔵資料展」

9/21 展示解説セミナー「企画展『新収蔵資料展』」

10/20 学芸員こぼれ話2「函館にくらしたアイヌの人々」

●北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

7/24～9/8 特別展「ユトリロ展」

7/24～9/29 ミュージアム・コレクション夏秋「道南の美術 黎明から戦後の展開」

7/24、8/31 ビデオ上映会「世界・美の旅 ユトリロ～悲しみの白～」

7/27、8/10 ギャラリー・ツアー

8/3 ワークショップ「ハコビ・マジカル・ワークショップ」

8/24 特別展セミナー「モンマルトルを描く～ユトリロの生涯と画業」

10/5～11/13 特別展「上田桑鳩・金子 亭・桑原翠邦～現代書～北に輝く三匠匠」

10/5～11/13 ミュージアム・コレクション秋冬「文字とイメージの織りなす世界」

●八雲町郷土資料館 (0137-63-3131)

6/18～9/29 企画展「徳川慶勝 八雲開拓の祖」展

10/8～11/10 企画展「重要文化財 コタン温泉遺跡出土品」展

後志

●北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)

5/28～8/26 特別展「ガラスの水族館展」

企画展「レースガラス展」

8/27～11/25 特別展「ヴェネツィア ワイングラス展」

企画展「ヴェネツィアン・モダン展」

●木田金次郎美術館 (0135-63-2221)

7/4～11/4 生誕120年特別展示「木田金次郎『第一回個展』の頃」

7/13 木田金次郎生誕祭 記念講演会「個人名を冠する美術館の明日を語る」

7/13 木田金次郎生誕祭 ミュージアムコンサート

7/19～8/18 しりべしミュージアムロード共同展「人生いろいろ」

8/23 夏のナイトオープン(ギャラリートーク+ナイトラウンジ)

8/31～9/23 藤倉英幸作品展「しりべしの風景たち」

9/14 美術館講座第3回「藤倉作品と親しむ」

9/28～10/27 企画展「あべ弘士絵本原画展」

空知

●三笠市立博物館 (01267-6-7545)

7/20～10/14 特別展「三笠1億年史～大地と文化の歴史～」

7/21、7/28、8/4、8/18 第2～5回自然観察講座「アンモナイトの観察」

7/27、8/3、8/17 体験実習「のぞいてみよう アンモナイトの殻の中」

8/3 講座「化石のお話 米国恐竜発掘記」

8/10、8/11 体験実習「化石クリーニング体験」「化石レプリカ作り」展示解説「展示解説ツアー」

8/13、8/14、8/15 体験実習「化石レプリカ作り」

展示解説「展示解説ツアー」

上川

●旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)

7/13～9/16 特別展「飛ぶ科学! 空と宇宙への挑戦」

●旭川兵村記念館 (0166-36-2323)

4/25～10/27 企画展「中学生が見た旭山周辺の『矢じり』や『土器』の世界」

9月(日時未定) 企画展関連講座「旭山周辺遺跡の思い出」

●北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

6/7~7/18 特別展「画家岸田劉生の軌跡 油彩画、装丁画、水彩画などを中心に」

6/7~9/8 所蔵品展「アートにすわろう！」

7/5~9/8 ダリ・テーリング

7/26~9/8 特別展「奇才・ダリ版画展 あなたはこの夢幻からぬけだせるか」

7/27、7/28 造形まつり「工作玉手箱！いろいろな形みつつけちゃおう！」

8/3~8/18 夏休み工作市場「きみも版画家」「ミニチュアいすづくり」など

8/3、8/10、8/24 ギャラリー・ツアー

8/23 スペインワインの夕べ

●名寄市北国博物館(01654-3-2575)

6/28~7/14 企画展「北国風景画同好会『風花』作品展」

7/20~8/25 特別展「名寄の米作り」

8/30~9/15 企画展「レコード展」

9/20~10/6 企画展「きのこ写真展」

10/19~11/3 堀田清写真展「植物エネルギーびふか 松山湿原」

10/19 講演会「堀田清スライドトーク」

網走

●北網走北見文化センター(0157-23-6742)

7/13~8/18 体験型実験装置群の巡回展「光の謎を解き明かせ！」

8/28~9/5 市内小・中学校夏休み作品標本展

10/2~10/20 第66回市民芸術祭

●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

7/13~10/14 第28回特別展「極北の島グリーンランド 氷海のハンター・エスキモー」

7/13 講演会「グリーンランドがたどった4500年の歴史と今」

7/20 はくぶつかんクラブ「グリーンランドのおもちゃとよみきかせ」

7/27 はくぶつかんクラブ「グリーンランドのいぬぞり模型づくり」

7/28 講座「自治と気候変動-極北の島グリーンランドの現在」

8/3 はくぶつかんクラブ「トーテムポールのペンスタンド」

8/10 はくぶつかんクラブ「かわでつくるミニバッグ」

8/17 講習会「北方民族博物館でジャムづくり」

9/15 講習会「結城伸子とつくるグリーンランドのリストウォーマー」

9/16 講座「北極海の捕鯨民イヌピアットの1年の暮し」

10/19 講習会「シベリアのサケ餃子〜ペリメニづくり」

10/26 講座「民族学と考古学 学問の系譜」

●北海道立オホーツク流氷科学センター(0158-23-5400)

7/6~7/15 作品展「第12回紋別押し花の会作品展」

7/20 科学教室「紋別わくわく科学教室」

8/3~8/20 作品展「北海道写真協会紋別支部写真展」

8/24~11/4 体験型実験装置群の巡回展「光の謎を解き明かせ！」

●美幌博物館(0152-72-2160)

7/31 観察会「夏休み子ども自然教室」

8/4~10/27 平成25年度特別展「発見！ 太古の元町」

9/1~9/29 ワークショップ「はくぶつかんクイズラリー」

9/7、9/8 講演会・観察会「第4回美幌博物館自然講座 トンボの暮らしを知ろう」

9/14、10/5 講座「第1回美幌博物館歴史講座 粘土をこねて土器をつくろう」

10/19、10/20 講演会・観察会「第5回美幌博物館自然講座 森のしくみを知ろう」

胆振

●室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)

8月~9月 企画展「室蘭の消防展(仮題)」

10/27 とんでん館寺子屋教室「焼き芋と木製コースターづくり」

日高

●新ひだか町静内郷土館(0146-42-0394)

7/7、7/28 郷土館おやこ塾「縄文土器を作ろう！」

7/17~3/16 企画展「前浜の恵み〜ツイシコンプ」

十勝

●帯広百年記念館(0155-24-5352)

6/28~7/21 収蔵美術品展「写真家・兼本延男の仕事展」

7/6 博物館講座「ものがたりの昆虫」

7/6、7/13、7/20 体験講座「親子陶芸教室」

7/13 博物館講座「縄文土器料理の一味を探る」

8/3~9/13 企画展「捕る・採る・録る〜生物研究のワザ〜」

8/7~8/8 体験講座「植物パラタクソノミスト養成講座」

8/9~8/10 体験講座「夜の昆虫採集&虫の捕まえ方講座」

8/27 博物館講座「捕ったぞ！ほっかいどうの虫」

8/31~9/1 体験講座「昆虫パラタクソノミスト養成講座」

9/21~10/14 企画展(北海道立北方民族博物館移動展)「カナダ・極北 イヌイトの壁かけ展」

9/21、9/28 博物館講座「レコードと音の文化史」

10/19 博物館講座「アイヌの言葉と祈りの文化」

●北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

6/8~8/28 コレクション・ギャラリー「アニマル・

コレクション！」 特別展「20世紀のプリントアート」

7/20、7/27、8/3 ミュージアム・カレッジ①~③

8/4 よりどりみどりがおかフェスタ

8/17 特別展セミナー

9/7~11/13 コレクション・ギャラリー「Bon Voyage! 世界の観光ポスター」 特別展「日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展」

9/7 トークショー&デモンストレーション

9/21、10/19 特別展セミナー

10/5 キッズ・ツアー

10/12 キッズ・ミュージアム

●足寄動物化石博物館(0156-25-9100)

7/21、9/8 観察会「あしよ化石教室」

7/1~8/31 開館15周年展「公開・カバ骨格組み立て」

8/31 パロックコンサート「古楽と古生物のハーモニー」

釧路

●北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)

6/7~7/17 特別展「奇才・ダリ-版のグラフィズム展-」

7/4、7/11 なるほど!アート塾「美の革命児たち」

7/26~9/23 特別展「花鳥風月-花と緑の日本画展-」

7/27 講演会「花と緑の日本画展 講演会」

7/27~8/18 ファミリーイベント「夏のキッズ・アートリエ」

8/31 アートシネマ館「ニューオーリンズ」

9/3~9/23 展覧会「加藤休みの魚展~GYO TEN」

9/5、9/12、9/19 カルチャー・トーク「アートは社会を元気にする」

9/7 パフォーミング・シアター2013「獅子舞パフォーマンス」

9/21 アートシネマ館「若草の頃」

9/23 ミュージアム・コンサート2013「ポリッツ&横山祐太 コンサート」

10/3~11/27 特別展「重要文化財『正行寺』よみがえった襖絵展」

10/19 パフォーミング・シアター2013「沙流舞台」

10/26 アートシネマ館「アメリカ交響楽」

10/27 講演会「よみがえった襖絵展 講演会」

●釧路市こども遊学館(0154-32-0122)

5/16~7/7 体感型実験装置群の巡回展「光の謎を解き明かせ！」

7/27~8/19 企画展「夏休みイベント」

9/14~9/16 企画展「宇宙の日イベント」

根室

●標津町ポー川史跡自然公園

(0153-82-3674)

9/1~10/6 企画展「標津番屋屏風原画特別展」